

# 鹿部町立鹿部小学校

教員数：20名 全校児童数：115名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル 学習習慣定着モデル

デバイス : WindowsPC  
OS : WindowsOS  
学習eポータル : L-Gate  
アプリ : ロイロノート、eライブラリ

### 取組の方法

#### ○ 教室と家庭での学びの関連付けを図る取組

##### (1) 家庭学習の実態把握とゴールの共有

- ・校内研修で、各学年の家庭学習の取組内容や取組方法等について共有するとともに、学校全体で家庭学習の在り方に係る共通のゴールを設定した。

##### (2) 長期休業中の家庭学習の取組の改善

- ・第4学年から第6学年において、デジタルドリルを活用することにより、児童が自ら課題を選択するとともに、学習計画を立てながら学習を進められるよう支援することにより、家庭学習習慣の定着を図った。

##### (3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と家庭学習をつなぐ端末の活用

- ・「ロイロノート」の共同編集機能を活用した家庭学習を実施することにより、家庭においても児童の他者参照による協働的な学びの充実を図った。



【意見をロイロノートで分類】



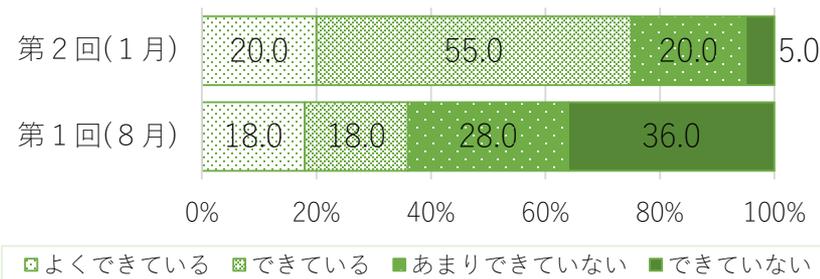
【家庭学習の学習成果を交流】

### 児童の変容

端末の持ち帰りやデジタルドリルを活用した日常的な家庭学習の取組を行ったことにより、「1人1台端末を使って家庭学習ができている」のアンケート項目において、肯定的に回答した児童の割合が8月の36.0%から1月の75.0%に増加した。

日常的に「ロイロノート」を活用した家庭学習を実施したことにより、授業と家庭学習の関連が深まり、児童の家庭学習に対する意欲が高まった。

「1人1台端末を使って家庭学習ができている」



# 釧路市立芦野小学校

教員数：24名 全校児童数：303名 実施学年：全学年

デバイス : Chromebook  
 OS : ChromeOS  
 学習eポータル : L-Gate  
 アプリ : ロイノート、タブドリLive、CBTタワー、  
 Google Workspace for Education

## 端末持ち帰りモデル 学習習慣定着モデル

### 取組の方法

#### ① 宿題の配信

- 学習アプリ「ロイノート」、デジタルドリル「タブドリLive」や「CBTタワー」などを活用し、宿題を全児童に配信
- 「Classroom」で課題を提示し、学級担任が提出状況や取組状況を把握（補充等が必要な児童には、個別に支援を行う）
- 「ロイノート」での動画提出を活用し、リコーダーなどの技術向上に係る課題を提示



【ロイノートによる宿題提出状況の把握】

#### ② 端末の持ち帰りによる家庭学習時間の記録（可視化）

- 「スプレッドシート」を全児童に配信し、児童一人一人が毎日、家庭学習に取り組んだ時間を記録
- データについて、個々の児童と学級担任のみが共有（他の児童の状況は公開しない）
- 学級担任は、個々の児童の状況を把握し、個別に賞賛・励まし等の働きかけを実施

ホーム	ドリル	録音機能	ダウンロード	設定	ログアウト									
状況	コメント	学習量	提出日時	点数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
配信済み	大槻花	2024.11.05	07:40	74点	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
配信済み	木村真衣	2024.11.01	19:43	100点	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
配信済み	工藤芽那	2024.11.04	18:17	76点	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×
配信済み	梅原悠希	2024.11.01	14:25	74点	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
配信済み	朝野美希	2024.11.05	10:21	88点	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×

【タブドリLiveでの配信状況の様子】



【スプレッドシートによる家庭学習時間の記録】

### 児童の変容

意識調査の「家で自分で計画を立てて勉強している」の設問に肯定的に回答した中学年の児童の割合が7月の75.9%から11月の84.6%に増加していることから、端末の家庭学習での活用及び家庭学習時間の記録化（可視化）を促すとともに、児童一人一人の学習状況に応じた教師の関わりを大切にしたことにより、家庭学習の取組が促進され、児童の学習習慣の改善が図られたと考えられる。

「家で自分で計画を立てて勉強しているか」

(中学年)

